

## XII 陸奥湾におけるホタテガイの成長および歩留りと化学成分の季節的变化について※

### 調査分担

#### ホタテガイの成長とボイル歩留りについて

※※ ※※※  
菅野溥記・赤星静雄・武田雷介・小川弘毅・青山宝蔵

#### ホタテガイの化学成分の季節的变化について

※※※※  
川村 満・山内寿一・佐々木政則・福田 裕

#### 調査結果の要約

1. 全重量に対する軟体部重量の割合は産卵期の3、4、5月には50%近い値となり、8、9、10月の夏期には20~30%となった。
2. 成長については、最も成長が良いのは奥内の垂下養殖貝であり、放流貝では浦田、野辺地、川内の順であった。殻長については3年以降に、全重量については4年以降にその増加率は小さくなった。
3. ボイル試験では歩留りが7月~9月に高く、10月に低くなる奥内、浦田タイプと、2~4月に高く10月に低くなる野辺地、川内タイプの2つに区分できた。
4. 水分含量は若年貝がやや少なく、グリコーゲンと負の相関関係を示した。
5. 粗蛋白の年間含有量の範囲は貝柱では17~19%、軟体部では13~15%であった。
6. 粗蛋白は貝柱では11~2月に増加し、軟体部では逆の傾向を示した。
7. 灰分は寒冷期にやや増加した以外は全般的に大きな差異は認められなかった。
8. リンは貝柱では10~12月に、軟体部では2~4月にそれぞれ高い値を示した。
9. 鉄は軟体部では4月下旬に大幅な増加を示した。
10. 無機質、グリコーゲン等は若年貝にやや多い傾向を示した。
11. 地域的差異については、川内区がグリコーゲン量が少なく、その反面、水分、粗蛋白が若干多かった。



- ※ 詳細は青森県漁政課より発表済み  
※※ 現在 ブラジル、ペスカ研究所  
※※※ 現在 兵庫県洲本農林事務所  
※※※※ 現在 北海道立釧路水産試験場